

- Potent army worm antifeedants from the east African *Warburgia* plants. J. Chem. Soc. Chem. Commun.: 1013~1014.
8. Kubo, I., I. Miura, M. Pettei, Y.W. Lee, F. Pilkiewicz and K. Nakanishi 1977. Muzigadial and warburganal, potent antifungal antiyeast and African army worm antifeedant agents. Tetrahedron Letters: 4553~4556.
 9. 牧野富太郎. 1989. 改訂増補牧野新日本植物図鑑, 北隆館, 東京, 62~80.
 10. 沼田 真・吉沢長人(編). 1975. 新版日本原色雑草図鑑, 全国農村教育協会, 東京, 40~58.
 11. Sukul, N.C. 1970. Inhibition of nematode infestation of wheat seedlings by *Polygonum hydropiper*. Nature 266: 771~772.
 12. 矢野雅彦・原田二郎. 1983. タデ科雑草の魚毒性, 雑草研究 28(別): 167~168.

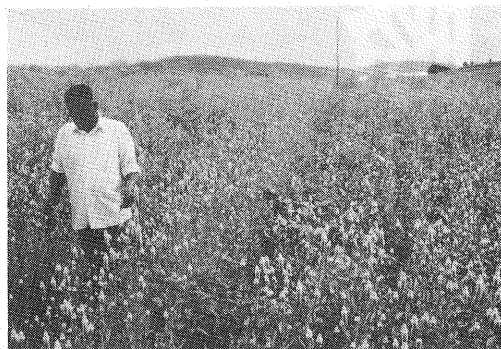
フィジーの畑作雑草：ノゲイトウ

1989年4月7日、フィジーの主島であるViti Levu島の雑草調査を行った際に、島北側のキングズロードに沿ったTavuaとMbaの中間点Natawaで、ピーナッツやビジョンピーなどの作物と混播したとしか思えない程畑一面に



第1図 ノゲイトウの原変種
Celosia argentea
var. *argentea*

均一に蔓延したノゲイトウ *Celosia argentea* L. (ヒユ科)を見出した(図1, 2)。農家の話によると、4年程前から増加したとのことで、今では附近の農耕地数十ヘクタールに及び大きな問題であるという。これまでノゲイトウは、畑地雑草として東南アジアで幾度か観



第2図 ピーナッツ畑に繁茂したノゲイトウ

察しているが、これ程見事なお花畑に出会ったのは初めてである。また、フィジーでも園芸品種が野生化したのを各地で観察しているが、すべて *forma spontanea* に属するもので、原変種である本種とは明らかに異なっている点から、恐らく作物の種子に混って外部から持ち込まれたものであろう。なお、ノゲイトウの防除法としては、シマジンやEPTC、トリフルリンが有効とされているが、種子は確実のため数年間土壌中で生存し、これだけ繁茂してしまえば薬剤処理による完全防除は極めて困難であると思われる。